



## 「ユニバーサル・ラン!」～又吉康十選手によるスポーツ義足体験授業～

- 本校は今年度「オリンピック・パラリンピック教育推進事業」推進校として、県教育委員会より指定されました。それを受けて、10月14日（水）の3・4校時に5・6年生を対象に「ユニバーサル・ラン」～又吉康十（またよし こうと）選手によるスポーツ義足体験授業を行いました。本来なら、又吉選手、関係スタッフの方が本校に来て、目の前で授業を行っていただく予定でしたが、今回はLIXILさんの協賛のもと、体育館においてリモートで行いました。
- 3校時に、①義足についての説明、②準備体操、③スポーツ用義足の体験（全員）を行いました。義足体験は全員が初めてでしたが、5・6年生の皆さんは感覚をつかむのが早く、また、4年前に来ていただいた山梨県出身でパラリンピックに何回も出場している走高跳の鈴木 徹選手のイメージが残っていたのか、私などより上手にマットの上など義足を装着して歩いていました。甲府市の樋口雄一市長様もおみえになり、義足体験をさせていただきました。（一番右の写真、市長と勝負？しているのは、5年の愛さん）

心豊かに、助け合う子ども  
運動に親しみ、健やかな子ども



- 4校時に義足の種類、付け方、値段などの話を聞いてびっくりする場面もありました。また、又吉選手が大学3年生の時に電車との接触事故に遭い、左膝下を切断し、2017年3月頃からスポーツ用義足を使い走り始めたことなど、事故後から現在にいたるまでの生活の様子・思いなど細かく話をしてくださいました。100m:12"11 走幅跳:6m33という日本記録（アジア記録）を持ち、来年の東京パラリンピックの出場を目指しているとのこと。話を聞いたあと、たくさんの児童が質問コーナーで手をあげてくれましたが、その中で6年生3人、5年生3人が質問をし、それに対しても又吉選手はていねいに答えてくれました。
- 体験授業の最後に、5年生の石原 瞬さん、6年生の木之瀬りなさんが、しっかり感想発表をしてくれました。私からお礼の言葉をのべさせてもらい、「障害があることは不便ではあるが不幸ではない」と、昔、聴覚障害者のおじから話をされたこと、「当たり前前を当たり前前に行ける幸せを感じながら、私たちは自分の身体・命を大切にしていきたい」という話をさせてもらいました。来年の東京パラリンピックでの活躍を期待しています！



- 今回の事業（授業）は、市長室国際交流課の方々のご指導ご協力をいただいた関係もあり、報道各社（UTY、NHK、山日、読売）も来校し取材を行いました。6年生の池谷しずくさん、千野歩翔さん、5年生の田中愛さん、寺鼻大斗さんが、しっかりインタビューに答えてくれて、14日の夕方のテレビで授業の様子と合わせて放映されました。全員が又吉選手あてに書いた手紙（今後、教頭先生が郵送します）のうち、一部の人の手紙をのせます。
- ☆『義足をはいて歩いてみて、最初は少しつまづいたりしました。義足にしっかりと体重をかけて歩くと、少し歩きやすくなりました。思ったより重く、はねるのでおどろきました。足をしっかり上にあげて、体重をかけ、バランスをとると、しっかり歩くことができたけど、やっぱりバランスをとるのはむずかしかったです。私は、義足は足が無い人にとっては、もう自分の足なんだと思いました。だから、義足は自分のパートナーなのかなと思います。私はもし、しょう害者に会ったら、かわいそうと思わず、前向きに努力している人だと思いたいです。がんばってください。応えんしています。』（5年生女子）
- ☆『リモートで義足体験をしてみて、とても不便だなあと感じました。その義足を2か月で日常生活をできるようにしたということは、とてもがんばったのだなあと感じました。これからは、しょう害者を見たら授業のことを思い出していきたいと思います。そして、私も家に帰ったら、バリアを探検してみたいと思います。これからは、又吉康十さんと同じように、がんばっていききたいと思います。』（6年生男子）

